

『生徒指導の実践上の視点』を生かした授業づくり

－ 教師用振り返りシート －



令和4年12月に改訂された生徒指導提要では、『生徒指導の実践上の視点』として「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の4つが示されています。これらの視点に留意し、**教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進めていくことが大切です**。日々の実践を振り返ってみましょう。

自己存在感の感受を促進する

- 児童生徒が「自分も一人の人間として大切にされている」と感じ、自分を肯定的に捉える自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む工夫をしている。
- 児童生徒の願いや思考と教員のねらいとのバランスを図り、「どの児童生徒にとっても分かる授業・面白い授業」になるようにしている。
- 学習意欲や授業への参加状況、学習上のつまずきの原因等を把握し、継続的で確かな児童生徒理解に基づく適切な支援を行っている。
- ICTを活用するなどして、学習の状況等に基づく「指導の個別化」や、児童生徒の興味・関心等に応じた「学習の個性化」により個別最適な学びを実現できるようにしている。

共感的な人間関係を育成する

- 失敗を恐れず発表できたり、間違いやできないことがあっても笑われたりせず、お互いの考えに関心を抱き合えるような学習集団づくりを促進している。
- 児童生徒の考えを最後までしっかりと聞き、受け止めている。
- 発言力のある一部の児童生徒とのやり取りのみで授業が展開されるのではなく、一人一人の反応やつぶやき、誤答を大事にし、それらを生かして学びを深めようとしている。
- 児童生徒一人一人の強みや個性を生かせる機会を提供したり、相互評価を取り入れたりするなど、お互いのよさに気付くことができる工夫をしている。

自己決定の場を提供する

- 児童生徒が自ら判断し、決定し、実行できるような学習課題や学習活動を工夫している。
- 多様な考えを引き出すための発問を工夫し、お互いの考えを共有して、自分の考えをより確かなものにできるようにしている。
- 自力解決する時間を十分に確保したり、考えを自分なりに表現できるような支援をしたりしている。
- 授業の振り返りにおいて、何が分かり、何ができるようになったのかを自覚し、自ら新たな課題を見いだすなど、主体的に学習に取り組むことができる工夫をしている。

安全・安心な風土を醸成する

- お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業が受けられるような風土を、児童生徒自らがつくり上げられるように支援している。
- 授業におけるルールの意義や価値を児童生徒が実感できるようにし、規範意識を育成している。
- 児童生徒への配慮に欠けた言動、暴言や体罰等を厳に慎み、「さん」付けして名前を呼ぶなど、適切な言語環境を整えている。
- 他者の人格や人権をおとしめる言動、いじめ、暴力行為等に対しては、毅然とした態度で指導している。